

1. 件名：九州電力株式会社川内原子力発電所第1号機・第6回の安全性向上評価届出について

2. 日時：令和5年11月29日（水） 14時00分～16時00分

3. 場所：原子力規制庁 9階A会議室（※TV会議システムによる出席）

4. 出席者：

原子力規制庁

安全性向上評価チーム

金城審議官、渡邊管理官、岩澤安全規制調整官、寺野管理官補佐、福原管理官補佐、佐藤主任安全審査官、儘田主任技術研究調査官※、西村副主任技術研究調査官、川口技術研究調査官、伊東技術参与、宮嶋安全審査官

九州電力株式会社

原子力発電本部 安全・品質保証部長 他23名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果を不開示情報を除きそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

- ・資料1：川内原子力発電所1号機 第6回 安全性向上評価の概要について
- ・資料2：実用発電用原子炉の安全性向上評価届出に係る改善事項に対する取組み状況について（川内1号機第6回安全性向上評価届出時点）

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	原子力規制庁の宮嶋です。ただいまより、九州電力川内 1. 第 1 号の第 6 回安全性向上評価に関する面談を開始させていただきます。
0:00:12	それでは資料に基づいて、九州電力の方から説明をお願いいたします。
0:00:24	九州電力の波多野です。
0:00:26	本日は仙台 1 号の第 6 回の安全性向上の届け出の概要ということでパワーポイント
0:00:35	では 30 分。
0:00:40	では、担当者の方からは、
0:00:44	はい。すみません、ちょっと 9 年からの声が小さくてとちら聞こえてないんですけどミヤジマくん聞こえてらっしゃいます。
0:00:56	多分マイクを持って、そうですねはいすみません失礼しました。1000、九州電力の波多野でございます。本日は川内 1 号の第 6 回の安全性向上評価届け出の概要についてお手元に
0:01:08	配布資料資料に基づいてご説明をさせていただきます。30 分をめぐにちよつとご説明をさせていただきますので、早速ですけれども弊社の担当の方からご説明をさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。
0:01:21	はい。九州電力の高木と申します。早速ですけれどもご説明に入らせていただきます。右肩 1 ページ 2 ページになります。1 ページ 2 ページ本届け出書の構成について記載してございます。
0:01:34	構成につきましては従来から変更はございません。
0:01:38	続きまして、右肩 3 ページでございます。1 章の記載方針でございます。
0:01:46	評価時点におきましては、第 27 回の定期事業者検査終了時点、2023 年の 5 月 19 日としてございます。1 章の構成でございますけれども、
0:01:57	右方の右側の図に示しております通り、これについても所従来と同様、小ダテは安全性向上評価の運用ガイドにされた目次に従っていると
0:02:09	状況でございます。続きまして、4 ページ 5 ページになります。
0:02:15	4 ページにつきましては、安全性向上に向けた継続的取り組みの方針ですけれども、これも従来と変更ありません。5 ページについても、
0:02:25	安全性向上評価の目的目標、そして、安全性向上評価の実施体制について従来通りとなっております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:33	続きまして、6 ページでございます。
0:02:37	保安活動の実施状況でございます。今回の調査期間といたしましては、一つ目の矢じりですけれども改善所改善活動の調査期間といたしまして、
0:02:48	2022 年 1 月 18 日から 2023 年の 5 月 19 日となっております。実績省の調査期間としては、5、2023 年の 5 月 19 日までの過去 10 年分。
0:03:00	または 10 サイクル分の確認をしております。評価項目、評価手法でございます。これについては、
0:03:07	従来から変更ございません。
0:03:10	評価結果でございます。一つ目の矢じりですけれども各保安活動の改善状況について調査した結果、
0:03:18	改善活動が保安活動に定着し、継続的な見直しが行われております。二つ目の矢じりでございます。各保安活動の実績手法につきましても、
0:03:29	時間的な推移が安定しているなどから、が確認されておまして、各保安活動を行う仕組みは適切かつ有効であるというふうに評価してございます。
0:03:38	7 ページでございます。保安活動の実施状況の中の主な改善活動を記載してございます。
0:03:45	一番上、表の一番上ですけれども、RCP軸シールのローテーション運用導入に伴うミッドループ運転期間の短縮ということで、
0:03:53	内容といたしましては、仙台 1 号の第 27 回の定期事業者検査から、本ローテーション運用の成立性を確認してございます。従来、ミッドループ運転期間で実施しておりましたRCP軸椎野関連作業というのを、
0:04:06	全ブロー期間で実施すること。
0:04:10	としてございましてその結果として、ミッドループ運転の期間が短縮されたといった結果でございます。
0:04:17	二つ目でございます。デジタル安全保護回路のソフトウェア共通要因故障対策と、
0:04:23	工事ということで、
0:04:25	これにつきましては、安全、
0:04:27	保護回路については、信頼性の高いデジタル設備になってございますけれども、さらなる対象機能の向上の観点から、間瀬ソフトウェアを必要としない、アナログのばっかバックアップ回路等を追加したといった、
0:04:41	け、といった内容になってございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:44	三つ目でございます。メタルクラッドの開閉装置、安全保護継電器のデジタルデジタル化工事ということで、
0:04:52	これ、既設のアナログ保護継電器、恵方継電器は、製版中止となっております。
0:05:00	税の生産中止となっておりますので、
0:05:03	今後、デジタル式の保護継電器の取りかえを実施してございます。
0:05:09	最後、四つ目でございます。フィルタバント手順書への確認行為の追加ということで、フィルタバント操作の信頼性の改善をするために、フィルタバントの製品に影響を与える運転操作、
0:05:21	気密扉の閉止操作について、確認行為を追加するといった、社内マニュアルの改正を実施してございます。
0:05:28	以上が内容でございます。
0:05:31	続きまして8ページでございます。8ページ新知見に関する調査でございますけれども、調査対象期間につきましては、先ほどと同様に、2022年の1月18日から2023年の5月19日となっております。
0:05:45	調査内容につきましては1から7のに関する基礎情報を収集してございまして、9ページ以降記載結果を示してございます。
0:05:55	9ページでございます。
0:05:57	表に記載してございますが、
0:06:00	右から3番目の列、収集数につきましては今回約1900件、収集してございまして、その結果、その右側、新知見というふうに整理したのが、約50件、
0:06:12	そして参考情報と整理したのが24件という結果になってございます。
0:06:17	はい。
0:06:17	続きまして、
0:06:19	10ページでございます。
0:06:22	具体的な例でございます。①の安全研究に係る研究ということで、
0:06:29	電力共同電力共同安全研究の知見として、ケーブルの経年劣化評価に関する研究がございまして、
0:06:37	概要といたしましては、重大事故等の環境下で機能要求があるケーブルの経年劣化を踏まえた長期安全性の研究、検証を実施をしていると。
0:06:46	いった内容になってございます。この反映状況ですけれども、この成果を活用して、PLM評価で一部ケーブルの事務評価というのを実施してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:57	続きまして、②の国内外の原子力施設の運転経験からえられた教訓で ございます。NRAの文書指示等の知見として、
0:07:09	航空機落下に関する知見がございました。
0:07:12	概要でございますけれども、軍用機事故の調査方法の改善によりまし て、改善により、当該期間の
0:07:19	航空機落下確率の評価において対象とする事故の件数が増加したも の、ものでございます。
0:07:27	反映状況といたしましては、航空機落下確率の再評価、そして、航空機 の墜落火災に関する外部火災の再評価というのを実施してございまし て、
0:07:38	反映状況に記載の通り問題ないということを確認してございます。
0:07:43	続きまして、右肩 11 ページでございます。
0:07:46	新知見関連情報ということで、
0:07:50	記載してございます。地震、地震本部が出した、
0:07:54	長期評価の第 2 版といった、県ものでございます。概要といたしまして は 2004 年に第 1、一般を公表してございまして、それ以降の知見を踏 まえた改訂版というふうになってございます。
0:08:08	オノへ来変更点といたしましては下に 3 個ポツが記載しておりますが例 えば地震規模の見直し等の変更点が行われていると。
0:08:17	ということで当社の反映事項反映状況といたしましては、右側のところに 記載してございますが、社内の委員会によって、下の三つのポツの通り ですね。
0:08:29	新知見関連情報として整理をしてございます。一つ例を出しますと、見 直された地震規模について、設置許可の地震と、そして津波評価の方 が、
0:08:41	この知見よりも規模が大きいということが確認されたことで、新知見関 連情報として整理されたといった、
0:08:49	ことが確認されてございます。
0:08:52	続きまして 12 ページでございます。
0:08:55	設計経年化、宛名発出文章の、設計の経年化ガイドラインの改訂版と いうのが発行されてございまして、それに基づく評価を実施してござい ます。
0:09:06	下の方に ATENA ガイドラインの評価フローの概要というのが記載して ございますがこれについては、玄海の先日、届け出させていたいただきまし た 34 号の届け出でもうすでに、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:17	同様のフローを記載しておりまして、特段変更等はございません。
0:09:22	続きまして、13 ページでございます。
0:09:26	評価結果でございます。
0:09:28	国内のPWRプラント間の設計の差異の抽出した結果、安全性への影響ありと、分類した結果が記載してございます。
0:09:38	三つ記載してございますが上から二つが仙台については未導入ということで、一つ目は再循環切替操作手段の差異ということで、
0:09:48	国内プラントでは、首藤伴自動自動方式が採用されておりまして、当社の程度ということで、台湾の検討としては、再循環切替の自動化を検討しているといった状況でございます。
0:10:01	二つ目のRCPシャットダウンの海泉ですけれどもこれに関しまして、仙台1号機は、
0:10:08	未導入ということで、導入を検討していくといったものでございます。
0:10:13	続きまして、14 ページでございます。今回、
0:10:17	プラントウォークダウンの実施を、PRAのプラントウォークダウンを実施してございます。
0:10:23	実施計画といたしましては真ん中の表の①から③の値を実施してございまして、結果といたしましては、今回構築しましたPRAモデル等に、
0:10:34	影響を与えるような要因がないということを確認してございます。
0:10:39	続きまして 15 ページでございます。
0:10:42	今回、重視された自主的な追加措置は以下の2件でございます。
0:10:49	一つ目、タービン動補助給水ポンプの取りかえでございます。これは海外メーカーの
0:10:55	原子力事業撤退等のリスクを避けるために、海外製のものから国内製のものに取りかえるといったものでございます。
0:11:01	仕様の違いといたしましては、海外メーカーは、元電源喪失時に、専用工具を用いた蒸気加減弁の開操作が必要となっておりますが、金。
0:11:12	国内メーカーに取りかえることで、
0:11:15	その操作が不要になるといったものでございます。
0:11:18	二つ目の追加措置ですけれども、設計経年化評価替えられた知見に関する技術資料の作成共有ということで、
0:11:27	プラントの設計の比較等、知見を基にした資料を作りまして、関係者の方に共有するといった追加措置を挙げさせていただいております。
0:11:37	続きまして 16 ページでございますが先ほどの2件に関する期待される効果を

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:43	下の表に記載してございます。
0:11:46	続きまして 17 ページでございます。
0:11:50	外部評価の結果といたしまして原子力に係る安全性信頼性向上委員会にかかる評価を実施してございます。
0:11:57	外部有識者 6 名に、本評価の骨子を説明させていただきまして、助言をいただきました。下にその内容対応に記載してございます。
0:12:07	ご意見ご助言といたしまして機器故障率を精緻化するだけでなく、リスクの高いシナリオに対して、衛生、定性的でも対策や検討を行う方がリスクに対する襟住まいとして重要と。
0:12:20	ということで、対応といたしましては、評価結果の数値にとらわれることなく、結果に寄与するシナリオについて分析を行う。
0:12:27	安全性の向上に繋がるような対策がとれないかというのを引き続き検討していくといった、対応として対応していくといったこととございます。
0:12:36	続きまして、
0:12:38	18 ページでございます。電力各社による届け出書のレビューというのも従来通り実施してございます。
0:12:46	続きまして 19 ページでございます。3 章の安全性の向上のために、自主的に講じた措置の調査及び分析ということで、今回実施する評価といたしましては、右下の
0:12:57	図の赤枠で記載してございます。PRA、安全裕度評価になります。詳細については、次ページ以降からご説明させていただきます。
0:13:06	ます。担当からさせていただきます。
0:13:13	はい。続きまして資料右肩 20 ページになりますこちらから確率論的リスク評価の説明に移らせてもらいます九州電力の河津と申します。
0:13:23	まず本届け出の実施内容につきましては、これまでに構築したPRAモデルをもとに、現在のプラント状態の反映として設計運用情報等の更新、新たな知見を反映した評価手法の高度化等を実施CDF等の評価を行っております。
0:13:39	実施範囲としましてはダイゴ化安全性向上評価にてすべてのPRモデルの
0:13:44	ベースとなる内部事象出力運転時PRAモデルの更新というのを実施しております、モデル更新による影響を把握した上で今回、内部事象停止時PRA。
0:13:54	及び外部事象、地震津波、
0:13:57	の出力についてPRAを実施しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:01	続きまして 21 ページになります。こちらPRAモデルの主な変更内容となっております、第 5 回で届け出ました内部事象出力運転時PRAと、
0:14:11	同様にですね機器故障率、人的過誤評価の手法等を変更しております。
0:14:19	はい。続きまして右肩 22 ページになります。
0:14:23	こちらの表はですねの停止地震津波、それぞれの第 1 回と、今回第 6 回の評価結果となっております。
0:14:31	PRAモデルによるPRモデル変更による影響と合わせてと記載させてもらっております。
0:14:36	地震津波におきましてはドイ特重施設が、結果を低減させるというふうな効果を上げておりまして、人的過誤でしたり機器故障率のコースによってPCFとしては、
0:14:49	増力ガワというと既設の結果を低減させるというものとなっております。
0:14:55	続きまして資料右肩 23 ページです。こちらについては各事象について不確かさ解析を実施しておりまして、確実な幅がどの程度あるか。
0:15:05	また点推定値が妥当であるかというところをこちらの表で確認しております。
0:15:12	続きまして資料右肩 24 ページです。こちらCS13 の放出量が 100 テラベクレルを超えるような事故の発生頻度につきまして評価しております。
0:15:22	地震レベル II PRAの結果から、5.5 ヶ月のマイナス 7 乗。
0:15:27	津波、列PRの結果からは、2.5 ヶ月のマイナス 9 乗という結果となっております。
0:15:34	またですね特重施設、追加ステファンやって放射性管理、放射性物質管理放出が追加となっております、地震レベルでは 8.7 ヶ月 10 のマイナス 8 乗。
0:15:45	津波レベル II では 1.3 ヶ月のマイナス 9 乗というふうな結果となっております。
0:15:53	続きまして資料右肩 25 ページとなっております。こちらはですね停止地震津波の事故シーケンスグループ別のCDFを表で表しておりまして、学会標準を参考にですね重要な事故シーケンスグループというものを抽出しております。
0:16:08	停止時につきましては、
0:16:10	定期事業者検査工程確定前のベースケース等、工程確定後の感度解析ケースのそれぞれに対して分析を行っております、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:19	停止時から崩壊熱除去機能喪失等原子炉冷却材の流出へと地震からは原子炉補機冷却機能喪失を、重要な事故シーケンスグループとして抽出しております。
0:16:32	続いて資料右肩 26 ページになります。
0:16:36	こちらはですね地震津波の格納容器機能喪失モード別のCFFを表で示しております、同様に重要な格納容器機能喪失モードというものを抽出しております。
0:16:50	地震から、水蒸気非凝縮性ガス蓄積による過圧破損と、格納容器隔離失敗を重要な格納容器機能喪失モードとして受中止しております。
0:17:04	続きまして資料右肩 27 ページです。
0:17:07	今回のPRA評価結果から抽出した追加措置、以下の表にあります通りとなっております。
0:17:14	事故シーケンスグループの重要度に応じて、FA10 度等を参考にですね、ソフト、ハード面、ハードの両面から対策等を検討しております。
0:17:23	PRAの部分については説明以上になります。
0:17:29	はい。担当者変わらせていただきます。九州電力の高木です。それでは 28 ページをご説明いたします。安全裕度評価のについてです。
0:17:39	今回は、服従の生活を踏まえた評価を実施してございます。
0:17:44	評価事象という評価事象、評価項目、評価手順につきましては、記載の通りでございます。
0:17:52	29 ページでございます。評価結果でございます。炉心損傷防止対策の出力時ですけれども、
0:17:59	特重施設、電源、特重施設による代替炉心注水及び格納容器スプレイを活用することでキンジショウに対する収束シナリオの多様化が可能となっております。
0:18:13	今回追加されたシナリオというのは赤の、あ、失礼しました。年下の青点線で囲まれた箇所になってございます。
0:18:23	結果といたしましては、
0:18:25	地震加速度が 1.10 に達した場合、主蒸気安全弁が損傷しまして炉心損傷に至ると。
0:18:32	というのが地震の結果でございます。
0:18:34	津波の評価ですけれども、津波高さが 15 メートルに達した場合、開口部から提案内に建屋内に津波が浸入し、ほとんどの機器が水没してしまうということで、炉心損傷に至る結果となっております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:50	30 から 31 ページのCV機能喪失防止と、停止時の評価についても同様に特重のシナリオというのが、青点線の
0:19:01	シナリオで、青点線で囲まれたシナリオになってございますが、これらが追加されて、収束シナリオを、
0:19:09	収束シナリオの多様化が可能となっております。
0:19:14	続きまして 32 ページでございます。
0:19:17	使用済み燃料ピットの燃料損傷防止対策でございますが、これに関しましては特重を活用することができず、
0:19:24	初回の評価と同様な結果となっております。
0:19:29	続きまして 33 ページです。
0:19:32	地震と津波の重畳の評価でございます。
0:19:35	評価結果といたしましては、下の図に記載の通り、地震単独、それぞれのクリフエッジシナリオに対して、それぞれ津波や地震の影響というのは、
0:19:46	影響を及ぼさないということを確認してございます。
0:19:52	続きまして 34 ページでございます。
0:19:55	地震及び津波の随時 3 時半事象の評価でございます。
0:20:00	今回、特重の施設が入ってございますが、特重施設については、既設よりも体力が高く、新たな 1 制限というのは発生しないことが確認されましたので、
0:20:11	評価結果といたしましては、前回と同様という結果になってございます。
0:20:15	評価結果の内容については 34 ページ 35 ページに記載の通りでございます。
0:20:21	続きまして、36 ページでございます。その他の自然現象に対する安全度評価ということで、
0:20:28	今回の評価につきましては特重施設の運開を受けまして、特重施設を含む発電所に対する影響確認を実施してございます。
0:20:38	②の評価結果ですけれども、
0:20:41	二つ、定量的な評価と、定性的な評価ということで分けてございますが、次の 37 ページには、定量的な評価、そして定性的な評価の具体的な事象というのが記載してございます。
0:20:54	一つ目のもページ 36 ページに戻りまして、一つ目の矢じりの定量的な日は、評価、
0:21:03	を行った事象、例えば、期初関係の高温や低温でございますけれども、こういう事象については、特重施設は、外部からの衝撃に

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:13	頑強な屋内に設置されているということで、
0:21:18	トビアスは、環境の屋内に設置されておりますので、影響に、評価に影響を及ぼすものはなかったということを確認してございます。
0:21:28	個別のそれぞれの気象やツマキ落雷の評価内容につきましては、37 ページから 42 ページに、
0:21:38	それぞれ定量的な評価を行った結果を記載してございます。
0:21:45	続きまして、二つ目の矢じりの定性的な評価を行った事象でございます。例えば、定性的な評価といいますと河川の迂回や、
0:21:55	雪崩土石流なんかがございますが、これについては評価の前提を変えるような新たな知見はなかったということから、
0:22:04	第 2 回届け出の評価結果に影響を及ぼすものはなかったということで、
0:22:09	確認という評価になってございます。
0:22:14	はいその他自然現象に関する安全評価のご説明は以上です。43 ページでございます。
0:22:23	安全裕度評価により抽出された追加措置を以下に記載してございます。
0:22:29	追加措置といたしましては、本安全裕度評価の結果を、特重の生活を踏まえた結果というのを、発電所に教育することで、
0:22:39	重大事故発生時等の事故収束対応のレジリエンス向上に期待できるということで、教育を実施しようと考えてございます。
0:22:49	以上が安全裕度評価のご説明になります。
0:22:53	続きまして 3-2 の中長期的な評価でございますが、これに関しましては、第 4 回の安全性向上評価におきまして、本評価を実施しているため、今回は実施してございません。
0:23:08	はい。続きまして、44 ページでございます。
0:23:12	総合的な評定でございます。
0:23:15	一つ目から安全性向上評価の結果でございますが、一章から 3 者間での評価結果を踏まえた、評価結果を以下に示してございます。
0:23:24	一つ目の資格調書については三つ、記載の通りとなっております。
0:23:31	安全性に関する単社につきましては特段抽出されたものはなかったといった結果になってございます。評定結果といたしましては、継続的に安全性向上へ行う取り組みは有効に機能していると。
0:23:44	今後とも抽出された安全性向上措置を確実に実施することで、安全性をさらに向上するという評価をしてございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:52	45 ページ以降なんですけれども、これまでの外部評価の対応状況や、本届け出で抽出した、追加措置の実施時期そしてこれまでの届け出で抽出した追加措置の対応状況を記載してございます。
0:24:06	以上でご説明を終わらせていただきます。
0:24:10	質問あれば、よろしくお願ひします。
0:24:18	はい。説明ありがとうございます原子力規制庁実用炉審査部門の福原です。
0:24:25	皆さんこれ繋がってるんですか今、
0:24:27	Webの方聞こえてますか。
0:24:37	と、
0:24:47	繋がってる。
0:24:49	儘田さん聞こえてますか。
0:24:52	はい。私も聞こえて大丈夫ですねすいません。ちょっと原子力規制庁の福原の方から何点か何点かあるので多分何名かから何点か出るのてちょっと簡潔に。
0:25:03	ご回答をお願いしたいと思います事実確認だけですので、まず、
0:25:09	7 ページ目のところなんですけれども右肩 7 ページ目のところで、えっとですね一番上のRCP熟シール関連作業という言葉が出てきて、
0:25:22	まずこのRCP熟シール関連作業というのは具体的にどういうことでしょうか。
0:25:29	はい、九州電力の高木です。
0:25:32	RCP、熟し軸シールの関連作業といいますのは、具体的に言いますと、RCP軸シールの分解、取り外しというような作業でございませう。
0:25:44	従来、うん。ミッドループ運転期間において、字句シールの分解作業を実施してございましたが、今回、シールローテーションをどう導入することで、
0:25:55	このジェクシード分解作業というのを、燃料取り出し後のRCベースの全ブロー期間に移動させることができたといったものでございませう。
0:26:04	以上でございます。規制庁深田です今までどうしてミッドループのときにやってたんでしょうか、もしわかれば。
0:26:18	九州電力の疇津です。今まで先ほどもおっしゃった別のシードをですね、買って、それをおそらく持ってなかったんですけど、
0:26:29	今回ローテーション%ということで別のシールを持ってきて、必ずしもそこで分解しなくても良くなったんで、こっちへ。
0:26:39	フローのところにも

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:42	炉よりリスクの少ないところできる
0:26:48	はい。規制庁深田です。了解しました。続きまして9ページ目になります。
0:26:54	9ページ目の表があって、
0:26:59	一番、右下のところに1件、えーとですね、参考情報の一番下のところ、国内事業者の安全性向上評価で中止された自主的な追加措置1件っていうのがあって、
0:27:13	表の右下1件これって具体的にもしわかれば、内容を教えてください。
0:27:20	わかればいいんですけど。
0:27:25	9ページの表の右下の1件という24件の上の1件っていうのは、どういう内容でしょうか。
0:27:33	九州電力本店から稲富 です聞こえてますでしょうか。はい聞こえてます。
0:27:38	はい。参考情報1件につきましては、以下た。
0:27:43	不便所で行われておりますシャックプロジェクトという場合、ウィップで確率論的地震ハザードのサポート課を踏まえたPRAの実施を、
0:27:54	上げてますので、それに運搬する形になります。
0:27:59	はい。物件につきましては、現在、NRCで、ウタダ以外の技術サイドへの等シャープの導入方法を検討中ですので、
0:28:11	ゴコウ踏まえて対応を検討している状況で、
0:28:16	はい、わかりましたありがとうございます。
0:28:18	続きまして右方に12ページのPRAの話になるんですけども、22ページに表があって、右側ですねCDFが、
0:28:29	ごめんなさい機器故障率の更新という言葉が何個か出てきまして、
0:28:34	22ページの表の右側に機器故障率の更新という言葉が出てきて、こいつがCDFの低減、
0:28:43	にもなるし、機器故障率の更新増加、CDF及びCFFの増加にもなってるんですね。
0:28:52	具体的に言うと、一番上の停止時のところはCDFの低減になってるんですけども、真ん中の地震に行くと機器故障率の更新をすることによってCDFが増加してるんですけども、
0:29:03	これってどういう、どう考えればいいですか。
0:29:07	はい。九州電力の平塚でございます。
0:29:11	機器故障率の更新ということで、これまで
0:29:17	一般故障率を電中研が整備しました。PRAの用の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:25	補償率を、
0:29:26	使っております。それを、仙台の12号の故障率で、ベイズ更新をしまして、個別の故障率を今回のPRAで使用してございます。
0:29:39	というのが1点。
0:29:40	で、故障率への影響ということで、
0:29:46	まず、故障率につきましては、更新によって、
0:29:51	増加したものの、低下したものもございませう。
0:29:55	ということで一律に上がったわけではなくて、基金には、機器の故障率によっては上がったものが下がって
0:30:02	いうこととございませう。まず、停止時PRAにつきましては、CDFが低減している。
0:30:08	いうところとございませうが、今回の停止時PRAの結果で、起因事象として、CDFの寄与してませうCCWの喪失、
0:30:18	のCDFが高くなく、
0:30:20	いうところで、
0:30:21	保証率としては電動ポンプ、
0:30:25	純水の故障率の方が、今回故障率を変えたと。
0:30:29	できました。
0:30:30	ということで、結果としてCDFが下がった。
0:30:33	保証率の影響がCEOに聞いた。
0:30:36	いうところとで下がったと。
0:30:38	いう影響があつて、
0:30:40	一方、
0:30:41	地震PRAにつきましては、補償率の影響によって、CDFがどうか。
0:30:49	こちらにつきましては、ディーゼル発電機の故障率が影響してございませう。
0:30:55	こちら、低加速度領域において、地震ではなくて、
0:31:01	外部電源が地震で壊れますと、そのあとに、地震では、ディーゼル発電機が壊れないんですけれども、
0:31:10	偶発的なランダム故障で、
0:31:14	ディーゼル発電機が壊れた影響が寄与してございまして、こちらの故障率の増加の影響がCDFの増加に、
0:31:22	効いているというところで、
0:31:25	以上です。はい。規制庁深田です。要はCGに支配的なシーケンスと地震時に効く支配的なシーケンスが違うので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:35	きいてくる機械、機器の故障率が違うので、変わってくるよってことですよね。はい、おっしゃる通りでございます。
0:31:42	はい、わかりましたありがとうございます。
0:31:44	あとですね、同じページのところで、米印が上の方に不
0:31:52	であごめんなさいじゃなくてですね、米印のところ。
0:31:56	なんですけれども、感度解析のことを書いてあるんですね米印のところ。
0:32:04	多分これはですね事前に見ると52ページとかに詳しく感度解析のことを書いてて、ちょっと感度解析って何をどう振ったのかってのがまずわからなくて、ちょっとその辺の説明をお願いしたいんですけれどもどういうことをされました。
0:32:20	かっていうのが多分52ページですよ。
0:32:24	はい。九州電力の平塚でございます。
0:32:27	まず、
0:32:29	パワーポイントで、51ページをご覧ください。52ページの一つ前のスライドになってございますが、
0:32:40	フローが、
0:32:42	記載しているんですけれども、
0:32:45	本文の後の、
0:32:47	右肩、パワーポイントで言うと、51ページの該当になる。
0:32:51	こちらの方で、今回の停止時PRA、どういう評価をしたか。
0:32:58	いうことをちょっとご説明させていただこうと思っています。
0:33:03	下の方にフローがございまして、
0:33:06	定期事業停止時PRAですので、定期検査中のCDFを算出するという ことで、定期計算の
0:33:16	工程、
0:33:17	定期検査におきましては、保守点検によって機器の状態が異なるという ことで、状態につきましては、工程の情報をもとに機器が保守点検で、
0:33:29	確認されているのであれば、PR映像川口
0:33:32	使い、
0:33:33	そのような情報で情報をもとに、評価する必要が
0:33:37	というのが1、
0:33:38	今回の
0:33:41	PRAにおきまして、まず定期事業者検査の工程案。
0:33:45	計画の段階で、一度、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:48	PRAを実施していく。
0:33:51	で、その中に、
0:33:53	その下に工程案に対するリスク評価でございますが、こちら、対策でも安全性向上対策として、
0:34:02	抽出している。
0:34:03	現在発電所では、停止時PRAの結果をリスクモニターということで、変動するのイシイで、
0:34:11	CDFの時間CDFを見ることが、
0:34:14	PC上のPRツールを導入しております、これを見ることで、その時の提携の工程によって、どの時期が、
0:34:24	CDFが高い。
0:34:25	変動見ることが、
0:34:28	法廷案の段階の評価をリスクモニターにしましてその結果をもって、
0:34:34	関連部署と法定の調整をします。
0:34:37	で、リスクが高い期間については定検の時期を見直す。
0:34:42	と実施してございまして、
0:34:44	そのあとの、
0:34:46	ケースとして、工程が確定。
0:34:49	してしまった後の実際の定検工程で感度解析
0:34:53	として、実際に、
0:34:55	今、実績の方提案で、法廷で、PRAをやったと。
0:35:01	ということで、法定確定前と、
0:35:03	徹底後に件数ベースケースと感度消して、
0:35:08	説明が長く、
0:35:12	規制庁フクハラですけどもここで言う感度解析というのは、工程案と、あとリスクの高いところを調整して、固まった本評価の、
0:35:24	固まった後の二つの
0:35:28	そういう蓋通の感度解析っていうのを、
0:35:32	て言えいいんですかね。ちょっと、この感度解析っていう言葉の意味合いとやってることの、何だろう、ギャップがちょっと若干あったので、やってみることおっしゃってる内容は、非常によくわかってて、
0:35:44	そういうこういう 51 ページのフローにあるようなことをやったのを、感度解析っていうことを、一般的にそう言うんですか。
0:35:53	早瀬。
0:35:54	パラメーター、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:56	今日の、今回のであれば、
0:35:58	変えた
0:35:59	はいはいはい。
0:36:01	はいはいはいですよ。あ、あ、わかりましたわかりたい。
0:36:05	あとあとごめんなさいと同じところの 52 ページなんですけれども、ちょっと具体的に、1 点教えていただきたいのが、オレンジ色ですね一番上の、
0:36:16	DGA系っていうところがあって 52 ページのオレンジ色の帯のところのDG一番SDJKの隔離っていうピンクのところ、右側にスライドしてますよと。
0:36:29	いうことですので、この真ん中というのは、燃料がないですよ。つまりCDFとかCFFが 0 ですよっていう状況で、DGの隔離をするのは、その一番安全なときにDGを隔離した方が最も安全で、
0:36:42	燃料が入ってくるような、右側に行けば
0:36:47	稼働再稼働に向けて進んでいくと思うんですけども、燃料が入ってどんどんこれから上げていこう高温、昇温昇圧していくっていう時にデジを隔離する方が、
0:36:57	何か素人的には危険なCDFが上がるような気がしたんですけども、これどう考えればいいですか、隔離するタイミングってというのは、一番真ん中の燃料がない灰色のところ、隔離した方が安全かなと思ったんですけど。
0:37:11	藤社長言ったり、PRA上は、理事を燃料がない燃料のリスクとして考えた場合は、この期間、
0:37:22	どうでしょうか。
0:37:23	期間に、
0:37:27	下がると考えて、
0:37:30	今回の工程においても、若干この評価対象期間外のところ、
0:37:39	若干、
0:37:40	通級後半のミッドループの状態になる
0:37:43	そこにも、
0:37:45	結果
0:37:47	でリスク上どうかというと、おっしゃる通り、
0:37:53	POS5、POS9 ということで、ミッドループ。
0:37:57	期間なので、前半と後半のミッドループと。
0:38:00	今回、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:01	結論、結果にキタノ。
0:38:04	数後、
0:38:05	前半のミッドループの方が、
0:38:08	他に津野が、
0:38:10	タカキ、
0:38:11	なってございますので、リスクとしては高い。
0:38:14	一方版のPOS9の方は、後に比べたら、低い。
0:38:20	機関なってる。
0:38:21	PDFで見ても、複数級の
0:38:25	CDFオーダーが花情報である。
0:38:28	で実際に、感度解析ベースケーとちょっと比較しましても、七条がなので、あまり
0:38:37	反応ミッドループなのでCDFが増加したと。
0:38:42	はい。
0:38:43	規制庁深田です。理解しましてありがとうございます。
0:38:46	あと、ちょっと簡潔にご回答いただきたいんですけども 22 ページに戻っていただいて、
0:38:53	20 右肩 22 ページのですね、
0:38:56	右半分のポツが幾つかあって停止時の
0:39:01	ナカノポツなんですけども、機器の運転状態の反映。
0:39:06	という言葉があります。
0:39:08	機器の運転状態の反映、これどういうことですか、機器の運転状態の反映とは何でしょうか。先ほどの機器の点検、
0:39:18	点検、
0:39:19	例えばDG
0:39:21	で隔離
0:39:24	を行っております。なるほど。さっき機器故障率の更新の、
0:39:30	機器故障率のときにご説明いただいた分ですね。
0:39:36	スライド 52 ページですかね、点検状態に、定期検査の期間によって、例えばディーゼル発電機が大気中であったり、加来理事長。はい。
0:39:48	わかりました。すいません。ございます。
0:39:52	ですねあと 27 ページに行ってください、
0:40:00	27 ページの表の下の半分の地震のところの真ん中のモデルの高度化というところがあって、
0:40:08	その中ほどに、代用パラメータを使用している機器、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:13	ていいうのがあるんです。
0:40:16	具体的には多分特重の機器なんですけど特重機器というのは代表パラメータを使用してますっていうことなんですけどもすみませんこの代表パラメータってのは具体的にどういうことですか。
0:40:27	はい。九州電力の河津。
0:40:30	先ほど
0:40:31	弊社の方からご説明ありました通り
0:40:34	PRAモデルにつきましては電中研の発表している固相率のデータを使用しております。
0:40:40	しかしその中でですね毒中等の運転経験が浅いような、
0:40:45	機器というデータが整備されておらずで固有の機器故障率というのがないという状況です。
0:40:51	嘘。そういうことで例えば、60の、
0:40:55	電源設備なんかは、ディーゼル発電機の方で、故障率を代表しているところで代用パラメータを使っているというものになっております。
0:41:05	既設のデイジーの
0:41:08	パラメータを、
0:41:09	数値を使ってる、
0:41:12	わかりました。
0:41:14	あとですね 27 ページ、同じところなんですけれども、
0:41:20	一番上の停止時のところの追加措置のところなんですけども、
0:41:26	原子炉補機冷却水系の負荷制限。
0:41:29	という言葉が出てきて、このCCWの負荷制限というのはどういうことでしょうか。
0:41:38	はい。九州電力の平塚でございます。
0:41:42	こちら、CW本、
0:41:45	負荷制限ということで具体的に言いますと、どういう状態かと言いますと、
0:41:52	リスクとして、今回のPRA結果で、
0:41:55	CCWに動いているポンプが、
0:41:59	まず、
0:42:00	故障して、さらに健全なポンプ、
0:42:04	もう、
0:42:07	流量制限に、供給、
0:42:10	申し訳ないです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:12	まず、
0:42:13	年CWと、原子炉補機冷却水ポンプというのが、様々な
0:42:19	事故時に必要なコンペアも谷、冷却水を供給してる本
0:42:24	そのポンプが健全なポンプがたまたま故障して、1台負傷します。
0:42:30	そういったときに、実際、負荷としては、いろんな基金へ送っていますんで、深尾絞ることができれば、ランナウトカーアノ。
0:42:42	流量なって、ランアウトするっていうのを防ぐために、
0:42:49	1台故障したときに、流量を絞ってあげれば、負荷製品に
0:42:55	生き残って、
0:42:59	要は規制庁からですけどもPRAの結果を活用して重要なものにCWの水を送ってやろうと。
0:43:08	そういうことですか。
0:43:13	10、必要な緩和系の機器として必要な機器が動くためには、例えばEC CS注入ポンプであれば、冷却が必要なので、
0:43:25	そのあとCCWのポンプが喪失すると、緩和系の機器が、
0:43:31	使えず炉心損傷に、
0:43:33	CCW
0:43:36	冷却水を供給できるように、CCWも負荷を絞って、健全
0:43:43	CWポンプの健全を保つと。
0:43:46	対策を、
0:43:49	10室でござい
0:43:52	規制庁フクハラですけども
0:43:54	詳しく
0:43:57	理解、ごめんなさいとザクッと理解をさせていただきなんですけどもまずCCW多分4系統ありまして、ABCDとあって、どれからでも、
0:44:07	どの系統からでもあるポンプに給水できるのかなと思ってんですけど、まずそこはそれで正しいでしょうか。
0:44:18	まず、
0:44:19	まず、
0:44:21	死守ダブリポークにつきましては、4台ございます。はい。はい。はい。
0:44:25	減ったな。Head、Bです。
0:44:30	ので、取れんタイラインもございますので注入ラインとしては、
0:44:36	ですよね。はい。で、これどういう状況を想定してるかっていうとポンプ1台を故障した、故障したときとおっしゃってたんですけども故障しても他3台あるよねっていうのをちょっと思ってしまって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:51	いえ、
0:44:55	どういう状態か。
0:45:05	えーと、
0:45:06	が、
0:45:07	が試験のために使えなくて隔離している状態で、
0:45:13	等でBが
0:45:17	待機。
0:45:18	ミギタ。
0:45:23	3番、待機状態にある
0:45:25	CDポンプが、運転している。
0:45:29	CCW
0:45:30	ポンプが2台
0:45:32	するときに、たまたま、今回でありますと、海水系が壊れてしまって、運転中の2台のポンプが壊れて、
0:45:44	現状2台で抽出してる、
0:45:48	供給水量が足りなくなって、滝川の本
0:45:56	ごめんなさい、2台2台で賄っていた供給量1体が、で賄うためには、大気が動かせばいいんですけどもそれが間に合わずに、
0:46:09	もう1台が故障してしまって、健全側も駄目になる。
0:46:17	規制庁フクハラず要は停止Gプラントが止まってる時なんで、CWの点検とかもしてる時もある、台数が少ない状況で、
0:46:27	ポンプが故障とかしたりしたら、CCWの水が足りなくなって、その時はMaaS送る先を制限しましょうと、そういうことですよ。あ、わかりましたすみません。
0:46:38	後で私の方から最後になるんですけどもちょっと29ページの、ちょっと勉強不足、不足で恐縮なんですけど29ページのストレステストの、
0:46:50	シナリオがイベントツリーがありまして、例えば
0:46:55	29ページの一番左上からずっと進んでいくんですけども、一番初めの下に行く失敗のところ、具体的に言うと三つ進んで、
0:47:07	多分補助給水によるSGへの給水が失敗してる、だから下に行くんだよっていう、そういう矢印かと思っておりますで、このSGへの給水が失敗してしまいますよっていう、
0:47:21	方向の矢印下に行く方向の矢印、これは正しいですかここまでは、
0:47:30	九州電力の高木です。
0:47:34	そうですねおっしゃる通り、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:37	左から3番目のSGへの給水で、
0:47:43	失敗をしたら下に行くっていう
0:47:45	流れに
0:47:46	IAと規制庁からで、それとですねちょっと、その横に書いて左に書いてある1.1gで主蒸気安全弁が損傷し失敗。
0:47:56	15メートルでメタクラ水没、その関係がちょっとわからなくて、九州電力高木です。その関係をご説明させていただきますと、地震に関しましては、
0:48:09	設計基準を超える地震動
0:48:11	をどんどん地震加速度をどんどん上げていくというような、
0:48:15	ことをやっていますが、そのときに、どんどん上げた時に、1.10まで上げた際に、
0:48:23	SJー給水ニワアノ所、主蒸気安全弁というのを使用しているということで、これが損傷することで蒸気発生系の給水というのが失敗しますと、
0:48:34	失敗した結果、下のシナリオに行きますといった、関係者
0:48:40	同様に、
0:48:42	津波に関しましても、
0:48:44	設計基準を超える
0:48:46	徐々に、
0:48:47	水位が上がっていくと、15メートルに達しますと、
0:48:52	タービン動の
0:48:54	SGの給水に使用しますメタクラ等の設備が水没しても失敗すると、下に行く
0:49:03	規制庁深田です。要は1.1Gで、タービン動補助給水ポンプが使えないし、15メートルの津波が来てもタービン動補助給水ポンプが使いませんと。
0:49:16	だからSG給水できません。そういうことでしょうか。
0:49:19	はい。
0:49:20	ご認識の通りです。わかりました。
0:49:23	私の方からは以上です。
0:49:27	規制庁のテラノですすいません1点、パワーポイントの15ページ目。
0:49:33	今後、追加対策でタービン動補助給水ポンプの取りかえというのを挙げられて挙げられてまして、本県すいません。ここのタービンの補助給水ポンプの取りかえに至ったその

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:45	何ていうかね意思決定のプロセス的なものをちょっとご説明いただけな いかなというふうに思いまして、一つ心としてはすいません私の私見不 足で恐縮なんですけどあまりタービン動補助給水ポンプの取りかえって いうこと自体があまり、
0:49:56	事例としてあまりないな、聞いたことがなくて
0:50:00	こういった自主的な安全性向上の取り組みこれな流れされてきて、そう いったものの成果的なものでちょっとトピック的なものなのか、そうでなく てここに久田記載いただいている、その海外メーカー、
0:50:12	云々とやりとり確保できない
0:50:14	ところもあって、
0:50:16	国産メーカーに取りかえるってということが何つうかねクリティカルなもの っていうか、致命的なものである種取りかえに判断に至ったのかみたい な、そういったところをちょっと感覚を教えていただけ
0:50:27	九州電力の高木でございます。
0:50:30	タービン動補助給水ポンプの取りかえに立ったきっかけというのを、
0:50:40	どういうふうに
0:50:42	取りかえを決定したかと。
0:50:44	どう御説明
0:50:45	と。
0:50:47	そのメーカー国内メーカーから提案というのがありまして、海外の原子 力事業の撤退、
0:50:54	によって、ポンプの部品調達、
0:50:58	そういうこと。
0:50:59	リスクが生じますよということは国内メーカーからの提案がございまし て、
0:51:04	またそういった
0:51:06	そういうリスクが生じるんだったら、変え必要があるよねということで、ま た、
0:51:11	多様な
0:51:13	御説明
0:51:14	規制庁の世良です。わかりました。もう今後、何か部品を取りかえようと すると、部品調達に困難なことが今後起きますよということで、取りかえ こを決められたということです。わかりました。
0:51:35	すいません。規制庁の儘田ですけどこちらから質問しても、アノミヤジマ よろしいでしょうか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:42	はい、どうぞお願いします。
0:51:44	はい。ちょっと私の方から概要プロパ概要の1のパワーポイントでちょっと3点ほどあるんですが、アベ章と10ページのところで、
0:51:54	先ほど
0:51:55	福原さんからもちょっと質問あったかと思うんですけど、航空機落下確率のところですね。
0:52:02	ここの一応反映状況としては、航空機落下確率評価してね多分件数が増えているので、これ確率上がっていると思うんですが、
0:52:13	これっていうと具体的にどのくらい上がっているかっていうのをまず教えてください。
0:52:25	どのくらいがどのくらいだったかというのを前後での平塚でございます。
0:52:32	おっしゃってる
0:52:34	影響としましては、
0:52:37	米軍機と自衛隊機の事故件数が増加していることが影響してございます。で、確率としましては、増加しております、
0:52:50	前回評価が、
0:52:55	4.5の10のマイナス8乗。
0:53:00	はいはい。はい。
0:53:02	4.4-10×の10のマイナス8乗が。はい。5.3タケノ12あります8条。
0:53:12	あ、はい。10-80オーダーぐらいですね。はい。それで、ちょっと私ですと、
0:53:20	はい、お願いします。
0:53:23	はい。それでちょっと私届け出書本体の方のものもちょっと見させていただいたんですはい条件やっぱりコメントこれと同じで、
0:53:31	ほとんどは10のマイナス8乗レベルだとわかったんですけど、航空機落下による防護設計の要否判断の基準って書いてあるんですけどこれもトンボこれしか書いてなくて、
0:53:44	これ具体的には、その要因判断するのはこれをどうアノれ、そのレベルとこれ、具体的にどういうことやっているかってのを簡単にご説明いただけますか。
0:53:58	要否判断という、こちらの判断基準という、もう、はい。
0:54:04	航空機落下の確率が、10のマイナス7乗以下という基準でございまして、この基準を超えてなければ防護措置が必要ないと。
0:54:15	いった、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:17	基準があって、
0:54:19	ソナーノダ上では地上なので今はそれで良い判断として、下回るってことを確認したということですね。はい。はい、わかりました。はい。
0:54:29	それと、あとですね、それからパワーポイント次の 11 ページに関してもですが、
0:54:36	こちらの方は、今回地震本部の火花でと南西諸島海溝周辺の人活動の長期評価ということで新しい更新されたということで、
0:54:46	この中の変更点として例えば地震規模の見直しというのがあって、
0:54:50	具体的にこの地震規模が見直されると、例えばこの見直された地震に対して、この規模で計算した時に、
0:55:00	これまでの例えば基準、地震動とか基準津波が、それに影響しないかということの評価されてたため、反映状況としては、
0:55:12	評価を超えることはないっていうふうに書いてあるんだと思うんですが、具体的に言うとその今回見直されたその市に対して、この地震動とか、
0:55:23	それから津波ですね、これって定量的に例えば評価されたんですか、されて、その基準津波とかと、
0:55:30	影響しないってことを確認したという、そういうことでしょうか。
0:55:38	てっぺい電力本店から村上と申します。こちらの音声聞こえてますでしょうか。はい、聞こえております。
0:55:44	公文栄一ポンプが、途切れてましたので、サイトウが
0:55:51	持ってなければまたご指摘いただきたいんですけども、はい。
0:55:55	若井です。方をされた地震規模につきましては、赤及び、南西諸島海溝スベンで発生する巨大地震として、
0:56:06	はい。というような話程度が想定されてるんですけども、タカミチエンドウ及び津波評価では、それを上回るマグニチュード 9 クラスの規模を設定して、
0:56:18	評価しております。よって、(ア)における基準地震動基準津波を明日はってことは明らかだと判断しております、今回、定量的な評価は実施してございません。
0:56:32	はい、わかりました。これは、だから、今回 9 電の方で、基準津波とか基準地震動の対象としているその地震に対して、
0:56:44	その規模が今回変更になってるんだけどもともとそれ以上のもので評価しているんで、影響がないというそういう定性的な判断をしたっていう理解でよろしいですね。
0:56:55	はい。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:57	どう、
0:56:59	forエミフタミの対象としてそれぞれ震源波源としてるもの。
0:57:05	今回で本部で公表されてるものが、一対一かというところではないんですけど、次の方は、発電所の近くにある内陸地殻内、
0:57:17	理事、サンポによる地震の方で評価をつけまして、
0:57:22	津波の方が、プレート間地震で基準プラン立法権と言ってるんですけども。はい。津波の方については、今回の
0:57:32	地震本部の公表されてる内容を確認して、既許可の時の、我々の規模を上回るのではないかという判断。
0:57:45	あ、はい。私がちょっと心配したのは、例えばM9の地震で評価してたとしても、例えばM9の地震の震源距離が100キロであると。
0:57:56	でも今回見直された地震の規模はその震源距離が要するに50キロでM7だったのが8見直されたってことだと。そっちの方が大きくなっていう可能性もあるじゃないですか近くて、地震規模は小さいんだけど近くで、
0:58:10	見逃された、地震による津波とか地震動の方が大きいっていう、その場合を、私ちょっと心配したんですがそういうことは菅アノ。
0:58:18	嘘。そういうことは考慮された上で、今回は見直しは必要ないということだったというそういう解釈でよろしいんですかね。
0:58:25	はい。同じ憲法でこの想定されてる位置関係で、ここも踏まえて判断した結果の、
0:58:33	評価の評価に影響はないというふうに判断してございます。はい、わかりました。はい。それから、これ、また、この後同じ地形に関してですが、こういうふうに、
0:58:43	その規模とかそれがヒライ自身が見直されたことによって、必ずしもその決定論的な基準津波、基準地震動以外で、
0:58:54	3章の方のPRAの地震ハザード解析とかはセットとか、評価結果ですね、それから津波評価の結果にも影響が出てくるんじゃないかなと。
0:59:04	広いチャンピオンのその等を津波の高さとか、地震動だけでなくそれ以外のものも関係するので、そういう点でこの知見ってのはそのハザード解析の山頂のPRAのですね、
0:59:15	地震ハザード解析とか、津波ハザード解析の方に、その危険にもこれ反映されます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:23	はい。今後本店からムラカミです。先ほどのご質問への合いをするところあるんですけれども、はい。ハザードの方につきましては、プレート間地震を評価の対象とし、
0:59:37	ございませんので、今回の意見を反映する必要がないというふうに判断。
0:59:42	必要がなく、評価の評価には影響はないと考えております。につきましては、ハードとしてプレート間地震、
0:59:52	検討してるんですけども、先ほどヤマシタように、5、それから、確率こちらで確認したところ、その許可の、
1:00:03	条件に反映させるものはないということを確認しておりますので、津波のハザードにつきましても、駅根幹の評価に影響はないということ、判断させていただきます。以上です。
1:00:14	このは、津波のハザード解析の場合には、その定量的な評価はしてないですか。
1:00:24	片岡駅についても、はい。
1:00:27	先ほども挙げました、次シーンの死亡それから発生確率を上回る評価を、評価の際にしてございますので、はい。はい。定量的な評価まではしてございません。
1:00:39	はい、わかりました。ありがとうございました。私の方からは以上です。はい。
1:00:53	鷲見さんの規制庁の伊東です。質問が3点あります。まずページ10ページ目のですね、
1:01:03	パワポの10ページの部分なんですけど一応
1:01:06	一番上の表ですね、放射性の
1:01:10	電気スケールに対する経年劣化の研究ですね、
1:01:14	健全性を確認したと、それを成果を数、書いてあるんですけど右のですね。
1:01:19	どのような項目を活用したのかという項目を説明。それが1点目です。
1:01:29	2点目はですね、15ページ、ちょっと先ほども質問があったタービン動条文の取りかえの部分ですけどちょっと、
1:01:36	この概略図があればですねちょっとそれを、
1:01:41	進めせるのであれば示して欲しいし、駄目であればですね、後で感じをください一応海外メーカー種をどうということにしたからですね、蒸気加減弁の開操作が不要になったかがわかるような絵があれば、
1:01:55	出ず駄目であれば後でお願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:58	3 点目ですけど、
1:02:01	22 ページ目にですね、低地とか地震時の影響の、
1:02:07	CDを書いたんですけど、右の方にですね。
1:02:10	CDFの低減と課税増減が書いてあんですけど、
1:02:14	CDFだけでいいんですけどそのそどのくらいの低減したのか増加したのかですね。
1:02:20	わかればその数字をしてください。以上です。
1:02:31	のやつは、福岡なんかわかりますか。この
1:02:36	keVの話は、
1:02:43	九州電力本店から稲富 ですけど、詳細なですね情報はちょっと今持ち合わせていないんですけども、
1:02:54	オープンから基本電力フクナがれて、今回のケーブルの重大事故の環境下における、
1:03:05	このデータをですね、当社のPLMの評価報告書の引用ということでですね、この
1:03:15	研究成果を項目お伝えさせていただいているというものになりますということで、当社の評価として営業としてこの研究計画を記載していますので、当社の評価に反映しているといった立て付けでございます。
1:03:32	すいません規制庁内藤です。逆にこの試験結果で、非常に劣化が激しいければ効果を早くするとかそういうところまではまだいってなくて
1:03:44	本結果を
1:03:46	それを今後分析するという考えでは、それともそれを分析して、成果として、もう実際入ってるのかどうかはどうでしょう。
1:03:55	本社でございます。
1:03:58	評価としてこの結果を活用していますので、後者でござい
1:04:04	あ、わかりましたでございます。
1:04:10	すいません。二つ目いただいた後のタービン動のちょっと絵みたいなやつはちょっと今持ち合わせてないので、ちょっと後日、ご提示させていただく。
1:04:20	よろしいでしょうか。
1:04:21	はいじゃあ後日よろしくお願ひします。それと、PRAの方は何か。
1:04:33	はい九州電力の平塚でございます。先ほどの
1:04:37	それぞれ 22 ページのCDFへの影響については、傾向については先ほどのアノ分関井等を実施してございまして増加傾向である。
1:04:49	であるとか低減傾向。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:51	ことは確認してございますけれども、一つ一つについて、幾ら低減したといった定量的な評価結果はございます。
1:05:01	以上です。
1:05:01	これは先ほど経営タービン動としてもですねどのくらいか、数字がわかればですね、教えて。
1:05:11	見ればわかりますよねカトウセトか何かですね。
1:05:15	なので、例えばですね、人的過誤の評価でCDFが増加しているというものにつきましては、感度解析、PRA結果の方で、
1:05:26	して、今回SERPからエプリのうちは0Creatorで実施しておりますので、そちらについては、感度
1:05:35	を見る
1:05:35	ので、
1:05:37	ウノはお示し、
1:05:38	いうことができます。
1:05:43	すいません。規制庁です。今言われた人間信頼性とかそういう部分は、増加の部分は出せるけど、この間こ種々事故処理の更新でLERFの低減と書いてあるのは、
1:05:56	何%ぐらいっていうのは、20%とかそういうやつは、
1:06:00	データがないというイメージでいいですか。ほ
1:06:07	そうですね。現在、ちょっと減少には記載してございません。はい。あとは例えば先ほどの一つ一つの故障率であれば一つ故障、厳密に言えば、故障率を変えてパラメータ振らないといけませんので、
1:06:20	そのような解析というのは今回実施しておりませんので、
1:06:24	数値は持ち合わせてない。
1:06:27	せいぜい全部いっぺんに計算シノでいくかちょっと提言わかるけど、その1個で効果については、パラメーター作業やってるわけじゃないから現状わからないということですね。わかりました。
1:06:47	すいません規制庁の金城ですけども、黙っておくといいながら質問して申し訳ないんですけど、今スライド22ページのところですね、まさに同じような質問なのかもしれませんけど、それぞれの
1:07:00	CDFの低減とか増加の状況というのは、これ大部の申請書の中にも、一切計量的な記載はないってことで、
1:07:11	加工費カクウということで、このようにパラメーターのこちらのですね、低減傾向にあるといった

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:18	等分析結果を踏まえて届け出書には、提言CDFが低減傾向にあるといった記載については届け出書にも載せている。
1:07:28	CFが幾らから幾らと、例えば今手元に申請書あるんですけど、申請書等のところにどの程度の表現であるという、あります。
1:07:37	いえ、
1:07:39	低減傾向にあるといった、
1:07:47	3点。
1:07:49	3.1. 3.。
1:07:51	なので、ページ数でいうと、3.1. 3の733ページ。
1:08:02	明日参照の。
1:08:04	3章の一番最後の、
1:08:06	はい。
1:08:16	3の、
1:08:17	733ページ。
1:08:35	はい。
1:09:08	ございません。というのが、故障率ももう機器数でいき事象であれば30004000円という、
1:09:16	パラメータになりますので、それをそれについて、一つ一つの故障率で新しいパラメーター
1:09:25	としてシミズ、
1:09:26	してございますが、それが前のものと入れ替えてっていう、
1:09:32	比較というのはいしてない。
1:09:38	ありがとうございます。
1:09:42	他に、イセ。
1:09:46	すいません。規制庁の西村です。私から一つだけ質問させてください。今日のスライドの25ページになるんですけども、
1:09:56	ベース計数の支配的な事故シーケンスグループが崩壊熱状況機能創出で97.3%ですね。
1:10:06	届け出書本体の方で内訳書いていただいている例えば、
1:10:14	3.1. 3の340ページに、
1:10:18	第3.1. 3.2-12表ということで、起因事象別プラント状態別炉心損傷頻度を書いていただいているんですけどこれ見るとキンジショウは補機冷系の全喪失がほぼほぼ、
1:10:32	6割ぐらい。
1:10:34	7割ぐらいですかね。POSの5-2で出てるよということなんですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:41	直接的な要因が補機冷系の全喪失である世RHRが使えなくなって、他の状況できませんということは理解をされていてそれが間違ってると思わないんですけど、
1:10:52	事故シーケンスグループと強いてその崩壊熱アベごめんなさい、補機冷系喪失ってあるじゃないですか、どっちに。
1:10:59	割りつけるかって、何か。
1:11:02	基準があるんですか。こちらの事故シーケンスグループにつきましては設置許可の、
1:11:09	時の停止時、
1:11:11	の事故シーケンスグループで、三嶋さんのおっしゃる通り、CWポンプが機能喪失して余熱除去系のRHR冷却ができないと。
1:11:21	事故シーケンスグループとしては、崩壊熱。
1:11:26	して、整理して、
1:11:28	以上で、
1:11:30	ありがとうございます。多分そうだろうなと思ったんですけど。
1:11:34	これ
1:11:36	何か設備の重要度を直感的に把握しようと思うと、
1:11:41	崩壊熱除去機能喪失の要因が補機冷系にあるんだよ、さっきのフクハラからちょっといろいろ質問が飛んでたと思うんですけども、
1:11:49	イメージが直結しやすいんじゃないのって思うんですよね。
1:11:54	保険やっぱ大事だよなってだから注水先の管理も密にやっていると、やっぱり崩壊熱状況喪失に至る頻度ってのは上がりますよね確率上がりますよねってことだと理解はしたんですよ。
1:12:08	何かそういう工夫ってできたりするんですか。
1:12:12	多分記載上の問題というか整理上の問題しかないんですけど。
1:12:18	おっしゃる通り、記載上は事故シーケンスグループの整理の仕方というのは、ルール上こういうふうになっているんですけども、なので、この結果から、
1:12:28	抽出につきましては、今回の崩壊の除去機能、イシダ分の喪失ということで先ほどご説明しましたしWが重要ということで、負荷制限を、
1:12:38	実施することで、
1:12:42	金城の発生頻度を下げるということで、
1:12:45	そうで今回ニイツ 90 基を守ることが、
1:12:49	整理、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:50	記載上はちょっと今のところ、こうした方がいいというのはないんですけども、分析等は実施して、
1:12:58	わかりましたありがとうございます。
1:13:04	他に規制庁側からあれば、
1:13:08	あと 10 分ちょっとあるんです、大丈夫ですか。
1:13:12	どうぞ。
1:13:15	あ、規制庁のイワサワです。
1:13:18	と、私からは 4 点、一つは、
1:13:21	コメン等ですね、それから三つの質問になります。
1:13:25	パワーポイントの 11 ページ目がコメントですけども、
1:13:32	FSARは自主的な取り組み安全性向上のための自主的な取り組みとして事業者が行うべきものとして最新の知見なり学会の最新情報を、
1:13:43	反映するかどうかを含めて、11 ページ目のところでは、推本が出している帳票化について、みずから、
1:13:51	検討を行い、今回については、
1:13:54	それ、そこまで反映する必要はないだろうという結論を出していただいてしっかりと、
1:13:59	知見については確認評価をしているという点ではコメントを評価したいというふうに考えて、
1:14:06	それから小川満が質問なんですけれども 5 ページ目、パワーポイントの 5 ページ目、お願いします。
1:14:14	左側に外部委員会。
1:14:17	による評価を受けてますって説明を受けていて、総合評価、評定委員会なる外部専門家からの評価を受けているということなんですけれども、
1:14:28	具体的にその評価委員会からのそのコメントを踏まえて反映した事例というのは過去、現在、今回に限らず何かありますでしょうか。まず質問が 1 点目。
1:14:48	九州電力の高木です。ちょっと該当ページをちょっとめくってます。少々お待ちください。
1:14:57	スライドの、
1:14:59	45 ページになるんですけども、
1:15:11	これまでの
1:15:13	外部評価の対応状況ということで、各、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:17	従来から衛藤専門家に、専門家の方々からも助言いただいておりますのでその助言に対して、
1:15:24	こんなふうな対応状況ですというのをまとめさせて、
1:15:29	ええ。
1:15:30	一番上の安全裕度評価の結果を用いた継続的な改善を、
1:15:35	また、ご意見ご助言に対しましては、今回のように特重のエッセイ活用を踏まえた、
1:15:40	評価、従来は従来といいますか、特重は、
1:15:46	Cvの機能喪失防止に、
1:15:50	また、
1:15:51	の観点で対策した工事、設備なんですけれども、そういう観点だけではなくて、生活も含めて、評価をしたらどうなるかといった、
1:16:01	評価を
1:16:03	やったり、やるといった改善。
1:16:06	対応をしているといった所。
1:16:10	すいません。9電の疇津です。もう一つちょっと、大分昔のやつではあるんですけど、
1:16:15	九州豪雨が昔あったときがあつてですね、すごく5降った時にあつて、その時に第2回ぐらいのちょっと、いわゆる2回の届け出なんですけど、
1:16:26	そんな時に、
1:16:27	やっぱりこう思わぬところで、やっぱり水がたまったりとか、そういったところはあるかもしれないよっていうご助言をいただいたので、我々届け出の、この委員会で見た後に届け出るマエダ間2プラント分ダウンして、
1:16:43	そういったものがないかっていう確認をしたりしています。それをもって、これも届け出に書いて、こういった後、排水処理、
1:16:53	に対してちゃんと排水できるっていう、そんな確認をしたり、
1:16:58	イワサです。ありがとうございます。外部評価の委員会のコメントっていうのも非常に、みずからを正すという意味では重要だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと。継続的な改善を努めてもらいたいと思っております。それから、
1:17:12	関連するところで公表についてです。FSARで自分みずからやっていることを、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:21	安全と言ってもそれは必ずしも事故は起きないというわけではなくて安全に停止。
1:17:27	して、影響を低減させるということが目的となっていることを、もう地元なり、対外的に公表するっていう意味では、衛藤、こういった取り組みをしているんでしょうか。
1:17:41	はい。九州電力の阿部です。
1:17:46	前回ぐらいの電子の話ですかねそういったところで議論させてもらってその公表の話もあった。
1:17:52	けど、我々としてはですねそのあとに、以前は本当に4浦上ぐらいの部分だけをプレスにつけたり
1:18:04	それで公表したりして、
1:18:06	そっからですねもう少し中身がわかるような形の、3ぐらいのやつをですね大体2枚ものぐらい。
1:18:14	それを公表資料に入れたりとか、
1:18:17	いうふうな形で、今工夫をしている。
1:18:22	今後ちょっと、まあ、あのね足の話でもいろいろやっぱり公表の話とか一般にしとるってのはある。
1:18:31	課題がありますので、この辺はちょっともう少しですね、改善をしていかないといけないなと思うんですけど、今、
1:18:38	現状はそういったところ、
1:18:42	はい。規制庁岩佐です。ありがとうございます。炉安審燃安審でも公表の話、みずからやっている自主的な取り組みについてしっかりと対外的に公表して、
1:18:52	いくつということを非常に大切なので、も、今まで以上にまた検討いただければと思い
1:18:59	それから最後の質問これが一番、私聞きたいところではあるんですけども、
1:19:04	該当ページとしては、確率論的PRAのところなんです。10、
1:19:12	22ページですね。
1:19:17	PRAは確率論的リスク評価要は確率をいじくるということで、初期値が変われば多少変わるし、宇和オーダー動かすにも、ある程度大きいことをしないと動かないということで、
1:19:30	やっぱり単独では難しくてですね、ここに表にある通り、第1回目の評価したものと第6回目でどういうふうに向いているかっていうのを確率論的にやっていくということなんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:42	多少その六条が五条になったとかそういったところはあるんでしょうけれども、そのPRAの活用という意味で日々のその検査業務の中で、
1:19:53	自主点検の中でそのPRAの活用方法、
1:19:57	これが6オーダーが合田になったからじゃ検査ではどういうふうを活用していくってというような取り組みってというのは、どういうふうを考えて、
1:20:05	いますか。
1:20:18	まず1通、規制、今回のPRAのモデルにつきましても今後規制庁さんにお渡しして、ご説明をした
1:20:29	適切で、
1:20:32	という形で確認いただくことになっていると思います。活用の面では、
1:20:39	いうところなんですけれども、現状は0のところ検査といったところでましてキーの中で、PRAを活用した、
1:20:47	では、現在ございませんが、取り組みとして、
1:20:52	発電所で不具合が起こった。
1:20:55	に、
1:20:58	社内でユキRmモデルを使って、その機器がPRAに影響があるかどうかといったことを、実際にPRAをまわしてあげて、
1:21:08	CDFが増加するかといったような確認といったのを、社内で、
1:21:15	しているというのはござい
1:21:28	リスクとしてどれぐらい。
1:21:31	この規制庁さんと確認して、それが
1:21:37	フクイの方が
1:21:38	そういったところで安全
1:21:39	影響を与える。
1:21:41	影響がどうか
1:21:42	といった形でPRAというのは活用していくのかなと。
1:21:48	考えていく。
1:21:50	答えを、
1:21:54	規制庁イワサワです。今炉安審燃安審でも、今後その
1:21:59	FSARの見直し議論が今されてますけれども、やはりPRAの活用、
1:22:07	なり、そういったところ、結局、この先ほどの通りその確立ってというのは
1:22:14	やっぱり分母分子が変わってきたり掛け算が変わってくれば少しの数値が動くことによって、確率が上がったたり下がったりするんですけども、でも、実際それがどういう影響があるのかどうかっていうのはプラントに当てはめようとするとなかなか難しいところがあると思う。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:32	結局それ数字遊びになっちゃうんじゃないのってところが、
1:22:36	思うところもあって、それをどう活用するかっていうところが、今後のポイントというかミソになってくるかなとは思っているので、その辺りも含めて、何かご感想もありますでしょうか。
1:22:49	九州電力の疇津です。このPRAの日々の活用ってということですね、定検中もそうなんですけど、
1:22:55	定検中なんかはですね、
1:22:57	今回のその我々が作ったPRAモデルを発電所におろす。
1:23:02	リスクモニター。
1:23:04	大体コウ手法みたいなこと。
1:23:07	こんな作業があるときはリスクがこんなに上がりますから気をつけてくださいねとか、
1:23:12	あとは危険、この重要機器、
1:23:15	ある濃度のときにはこういった機器が重要なんで、この辺には気をつけてくださいねとかって活動であるとか、
1:23:23	あと運転中もですね、やっぱり運転中ってあんまり機器の状態変わることはあんまりないんですけど、補機切り換えて、
1:23:30	機器を切り替える時は、全台運転にしたりして、そこでもし共通原因で落ちたら、リスクが上がったりするっていうと、
1:23:38	こんなふうに、定期試験とかこう切り換えでやったら、こんなリスク上がるんですよっていうのをちゃんとやっぱり社内にですね、
1:23:46	知らしめるっていうそういった活動は日々やってる状況。
1:23:51	こういったところから、なかなかPRAと難しいところはあるんですけど、地道にちょっとこうやっていくところから、やっぱりリスクの感度みたいなやつを、
1:24:02	やっぱり
1:24:04	醸成していくのかなという。
1:24:07	はい。規制庁、湯浅です。ありがとうございます。まさに今炉安審燃安審でも、この見直しの話出てきてますので、電力でも、こっちいただきながら、どういうふうに、自主的な安全対策、
1:24:21	取り組みができるかっていうのを、
1:24:23	ご検討いただければと思います。私からは以上と。
1:24:33	いや他に質問、特になければ、
1:24:36	はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:39	すいません。一応金城ですけど冒頭申しましたようになるべく黙って最後公表ということで公表みたいなものに入ろうかと思うんですけど、
1:24:50	まず私、非常にびっくりというか残念なのが、
1:24:57	もう、もうちょっとね、いろいろとデータを基にしたやりとりみたいなものが活発にできるような多分制度なんだけど、
1:25:04	なかなかそういう感じになってないなと思って、いうのが印象ですね。例えば、私思ってたのは、最後の方、内野ニシムラの方がね、いろいろいろいろ起因事象別の炉心損傷頻度が、
1:25:17	下をちょっと議論して、やはり、
1:25:20	綺麗が大事なんだなみたいな。
1:25:22	僕なんかそういうのをす出発点に、何かこう議論がいろいろ積み重なる姿を実は
1:25:29	ちょっと見てない時は想像したんですけど、
1:25:34	最初の方の質問からのやっぱりこのデータはどうなってるっていうのを
1:25:39	あまりこう、
1:25:40	定量的に出せないような、申請書をね、一生懸命探すんだけどなかなか、
1:25:46	難しい状況だったりするんで、
1:25:48	というのが、
1:25:51	今岩佐の方からもありましたけど、これ一今炉安審燃安審で、どうやって、これからもより良くしていこうかって議論していて、
1:26:01	多分一つ大きなミソになってるのがこれはあくまで届け出。
1:26:07	ですから、あまり我々の許可とか認可とかを、多分、普通の審査会合よりは、全然気にせずに議論できる場ではありますし、
1:26:18	あとまさに自主的な安全性向上といったところなんで、
1:26:23	多分もう、もっと皆さんには使っていただきたいし、我々も、
1:26:29	使っていきたいなというふうには考えているんですけど、多分なんかも、双方にもうちょっと努力が必要かなという感じはいたしました。
1:26:37	で、多分炉安審燃安審でもね、議論してて、皆さん聞いてると思うんですけど、
1:26:42	関村さんなんかは多分、しっかりとこれ使っていけば、
1:26:47	各社の届け出の内容がね、どんどんどんどん個性が出てきて、各
1:26:54	会社ごともそうですし、サイトごともそうだし炉ごとに、
1:26:59	いろいろ違ったようなものが、
1:27:01	出てくるのが多分、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:03	この制度の最も良い活用の仕方かなというのは思いますんで、
1:27:09	そういった意味ではちょっとまだね、炉安審燃安審でどうしたらそういうふうに、
1:27:13	我々も、
1:27:15	一緒になって、使えるかという議論、
1:27:19	していきたいなと思いますので
1:27:21	また何かね、アイデアとか、ご意見があれば、お聞かせいただけたらなと思いますけど、何かありますか。やっぱり何かそういう
1:27:30	難しいとか具体的なものを出したくないみたいなそういうのあるところありますかね。よろしいですか。羽田野でございますデータに関しましては特に我々が出さないとそういう意図は全く
1:27:44	なくて今回電中研脳データベースサイズ更新して多分入力を作っててちょっと数が多くてさらにちょっと届け出の
1:27:53	資料としてすごい大きなものになってしまうのかなというところもあって、その辺りはちょっと少しそのフォーカスを、ちょっと注力すべきちょっと論点というかその辺りをですねちょっとご議論させていただく方が、
1:28:06	いいんじゃないかなと、全部出さなきゃいけないというふうにもしこの制度を考えてるんだったら多分それ、そういったところまでまさに届け出なんで、全く求めてなくて、
1:28:17	例えばそういったパラメータが変わったところで、ちょっと扱ってみて、これはちょっと、結構感度が高いっていうかね、動かすと結構大きいいろんなところに影響があるから、
1:28:29	ある、その補償率が 3000 といって、
1:28:32	変わったのが、3000 アトベさん全部我々も見ようと思わないんで、そのうち一番感度の高い二つ三つは、何かちょっとピックアップして、何かこう、影響はこうなんですけどというようなものがなんか入ってると思うんですね。
1:28:45	そういうのがあると、多分議論も、
1:28:49	お互い何かやりやすいかなあという気はしましたけど、そこはどうですかね。なんか、もしそういうのが出しにくいってなったら何か我々も考えていけないといけないんですけど。
1:28:59	畠埜で物技術的には全然感度解析をして、多分、
1:29:06	我々もインハウスということで、自社でフレキシビリティが出るような形の体制を今とらうとしておりますので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:15	何でしょう、どこを論点するかっていうところになるかと思いますパラメータを変えると、全然結果も変わってくるので、
1:29:24	それをちょっとどう、
1:29:26	我々が考えるかっていう考察をしてしっかりして、まずはちょっとご説明をしていくということが中アノ、当然データも変わりますし、モデルも変えていかないといけないと思うんです。
1:29:39	衛藤ヒューマンエラーのちょっと方法を変えたりしてるの昔はSERPではかなり
1:29:45	ざくっとした値をやってどうしてもちょっとそれは良くないということでちょっと比留間Creatorの方に変えていったんですが、そういったこ等を少しちょっと議論、
1:29:56	できるような形にした方がいいのかもしれないですね何かちょっと論点をちょっと少し、
1:30:00	議論できるような場を少し設けた方がいいのかもしれない。
1:30:04	特に我々どこ
1:30:06	議論をしたくないというのは特にありません。ただ、やはりちょっと全体的ボリュームやっぱり大きいので、その辺りはちょっと少し議論する違うんじゃないかなと考えてますよねだから別に、
1:30:17	すべからくって多分、最初の部分は、そういうのあるかもしれませんが、そこも今見直しをしてますけど、
1:30:26	例えばやっぱり分析のところでもっとそこまでは、
1:30:29	必要ないと思うんですよね。
1:30:30	だけど、例えば小宮さんみずから分析していて、
1:30:35	これちょっと聞くなとかですね、これはちょっと議論してみたいとか、何かあるような気がするんですよね。
1:30:42	だからそういうものが、
1:30:44	もっとあまり今日許可とか認可とかそういうものが不要ない場ですね、議論できるような場だったら、もっと議論が盛んになるんじゃないかなあと私は思いました。
1:31:01	今のお話だとですね、この前じかに私湯浅さんたちの方にちょっと説明をさせていただいてやっばこ推本の時、地震の話とかですね、
1:31:12	ていうところはやはり
1:31:14	規制庁さんとしてもかなり興味があるなっていうところがやっぱりわかったので、やっば今回の仙台のやつも、やっばその辺はちゃんと根拠みたいなやつをちゃんと書いていこう。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:24	プラス国ヒダカとか、外部火災の評価についてもですねその辺はやはり、興味があるなあというところが我々もわかったので、
1:31:35	そういったところは、感度をちょっと上げてですね、それってやっぱりこの前、いろいろと面談の中で議論させていただいて、
1:31:45	届け出書にこういうのをやっぱり変えていった方がいいんだろかなというのを考えて、
1:31:50	書かせていただいたりしているので、この辺はやっぱり、今後も、なるべく我々もですね、今のこう来てる若手もですね、なかなかウェブを介してっていうのが多くて、
1:32:02	なかなか直接ご説明させていただく機会がないので、こういった場をぜひちょっと設けさせていただいて、じかにコウこさせていただいてですね。
1:32:12	いろいろとより、やっぱり面着の方が、こういった議論とかやりやすくなるので、こういった形でちょっと開催させていただければなというふうに思って、
1:32:23	はい。
1:32:26	そういった意味ではいろいろ今も
1:32:30	説明を聞いている感じるのは、我々の側で何かニーズがあるようなものをみたいなのがちょっと、
1:32:37	上にきすぎてる感じもしてですね、むしろ、皆さん、サプライヤー側から、いやある意味で、技術者として、
1:32:45	ちょっとこれは
1:32:49	議論してみたいなとかですね。
1:32:51	技術ちょっとこれは新しいことだから、ちょっと乗っけて深く議論したいなとかいうそういうものももっとあると。
1:33:00	秋といろいろと議論が積み重なるんじゃないかなっていう気はいたしました。
1:33:10	他に何か。
1:33:12	大丈夫ですか。はい、では以上をもちまして川内 1 号の第 6 回安全性向上評価の面談を終わりたいと思いますありがとうございました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。